



やるきほんき木佐木

神奈川県議会議員
日本共産党

2025.9.10
木佐木ただまさ news
発行：党横浜北東地区委員会
横浜市鶴見区潮田 3-147-6
TEL：045-511-1021

Profile
▶1984 年山口県出身
▶鶴見区馬場在住
▶神奈川大学法学部卒
▶よこはま健康友の会会長
▶横浜東民商顧問

ギャンブル依存症から子どもを守れ

県教委に予防教育の強化を要望



日本共産党神奈川県議会議員団は9月1日、神奈川県教育委員会に対し、急速に広がるギャンブル依存症から子どもたちを守るため、予防教育の抜本的な強化を求める要望書を提出しました。要望書の作成に協力していただいた「全国ギャンブル依存症家族の会 神奈川」のメンバーも同席し、当事者家族としての切実な思いを直接伝える場にもなりました。

若者を狙う「病氣」、その実態

ギャンブル依存症は、人生に大きな損害が生じるとわかっていても、ギャンブルをしたいという衝動を抑えられなくなる、WHO も認定する精神疾患です。近年、違法なオンラインカジノの蔓延により、特に若年層での問題が深刻化しています。警察庁の調査によれば、オンラインカジノの経験率は20代が最も高いことが示されています。

久里浜医療センターの専門医は、オンラインカジノ依存を「早い・多い・やばい」と表現し、強い危機感を示しています。患者は20代が最も多く、借金額は平均1500万円にのぼるといいます。さらに、ギャンブ

ル関連の負債による年間の自死者は約400名に上るといふ深刻なデータもあります。

具体的な要望に教育長も前向きな姿勢

要望書では、江戸川区の先行事例も参考に、以下の具体的な対策を求めました。

- ・スマホ等の利用が本格化する中学生の段階からの早期予防教育の強化
- ・保護者向けの啓発活動の実施
- ・予防に関するポスターや冊子の全小・中・高校への配布
- ・教職員研修の充実と、学校・当事者団体・専門機関などが連携するための協議の場の設定

これらの要望に対し、花田教育長は「高校生に何かを強いるものではないので、断る理由はない」と前向きな姿勢を示しました。教育長は、本来は家庭で行うべき予防教育としながらも、「家庭も大変な中、学校がそうした役割を担う事が必要」との認識を表明。「研修や授業については、校長会等で共有して関心がある学校があればぜひお願いしたい。ポスターや冊子の掲示や配架も共有したい」と述べ、今後の連携に期待を持たせる回答をしました。

県議団も、未来を担う子どもたちがギャンブルの脅威から守られる社会の実現に向け、これは喫緊の課題として求めていきたいと思っています。



YOUTUBE でも動画で紹介しています⇒

